

『バブル』 武田綾乃

「重力は壊れた、好きに跳べ」。『進撃の巨人』『甲鉄城のカバネリ』の荒木哲郎監督、脚本は『魔法少女まどか☆マギカ』『PHYCHO-PASS』の虚淵玄、キャラクターデザインは『DEATH NOTE』『バクマン。』の小畑健、企画・プロデュースはあの川村元気と、錚々たるメンバーで届けられた映画『バブル』を、新刊『世界が青くなったら』も好評な武田綾乃がノベライズ！五年前に世界中で突然降り始めた「泡」。東京は巨大なドーム状の「壁泡」に包まれ、東京以外の泡は止んだのにもかかわらず泡が降り続け、水没する。泡が降り止んだいまま壁泡の内部には未知の重力場が発生し、車や建物が浮遊した異様な光景をもたらしている。東京は居住禁止区域に指定されていたが、そこになおとどまる若者たちがいた。彼らは東京の特殊な環境を最大限に活かした危険なゲームに興じていた。バトルクール。水没したビル街を舞台に、浮遊する泡を利用しながら、どちらが先にゴールにたどり着くか5人組のチーム同士で競う競技だ。「この世界は、ヒビキにとって騒がしすぎる」。耳が聞こえすぎるため外界の音の遮断用にいつもヘッドフォンを着用しているヒビキは、バトルクールのチームのエースだ。メンバーの仲はいいが、ヒビキだけは仲間から距離を置き独りでいた。大小の泡が高密度に集合し上部が積雲に包まれている「タワー」から聞こえてくる歌。それを追いかけてタワーの登頂を試みるヒビキは、重力が歪む海へと落下し死に直面するが、無数の泡がまとわりついた少女に救われる…。アンデルセンの『人魚姫』も！

『マスカレード・ゲーム』 東野圭吾

「今こそ仮面を外す時——」。ついに著作百冊達成！かと思ったら、誰も騒いでいないところを見るとまだみたいです。ありゃ。次作かな？『白鳥とコウモリ』『透明な螺旋』と絶好調の東野圭吾待望の新作は、キムタク主演の映画も大好評の＜マスカレード＞シリーズの4作目にして総決算！ 解決の糸口すらつかめない3つの殺人事件。共通点はその殺害方法と、被害者がみな過去に人を死なせた者であることだった。その被害者たちを憎む過去の事件における遺族らが、ホテル・コルテシア東京に宿泊することに。警部になった新田は再びコルテシア東京へ。

『マイクロスパイ・アンサンブル』 伊坂幸太郎

「どこかの誰かが幸せでありますように。さあ、作戦会議だ！」福島県の猪苗代湖で開催されている音楽フェス「オハラ☆ブレイク」でしか手に入らなかった幻の伊坂作品（毎年配布され、登場人物が1年ずつ成長していく！なんてすてきな試みでしょう！）が、7年の時を積み重ねて一冊の本になりました！猪苗代湖を舞台にした7年間の物語です。「松嶋君って、エンジン積んでないよね」。いっこうに就職が決まらないけれど、そのうちどうにかなるだろうとライダーのようにふらふら飛んでいたら、彼女にフラれ、一念発起してなりふり構わずシューカツに励み、なんとか名の知れた会社に就職したばかりの社会人。父親から暴力を振られ、仲間たちからはいじめられ、「もうとっくにギリギリなんだ！」とそこから逃げだそうとしているところを、いままさに敵に追われて飛行機で脱出しようとしているエージェント・ハルトに救われ、スパイにスカウトされる少年。二人は別々の世界の住人のようだが、猪苗代湖を通じてつながっているらしく、スパイのほうの世界の住人は我々の世界より小さくて「虫」を乗り物に利用しているらしい…。「あっちにいる人たちが、ちゃんと幸せになってくれればいいな」。

『愚かな薔薇』 恩田 陸

「吸血鬼ってなんなんだろうと子供の頃からずっと考えていた。人類の進化の記憶の発露なんじゃないか、とどこかで感じていた」（著者）。なんとお耽美吸血鬼モノの元祖にして最高傑作！『ポーの一族』の萩尾望都さんがカバーイラストを提供！美しい吸血鬼の物語です。夏が近づく季節、14歳の少女・奈智は町の高台にある城で行われるキャンプに参加するために磐座^{いわくら}にやってきます。集合場所のお寺で、「このキャンプは適性があるかどうか見るためのもの」「このキャンプでみんなの身体が徐々に変わってくる」ことが説明されます。二ヶ月にも及ぶキャンプの目的は、星々の世界へと旅立つ「虚ろ舟乗り」を育てることでした。その適性が厳しく見定められ、限られた子どもだけがキャンプに参加でき、さらに特殊な訓練を受けてごく少数のみが虚ろ舟に乗ることができるのです。再会した高2の「兄さん」深志^{ふかし}はキャンプには参加したが舟には乗れなかったといひます。深志は、苦しかったら自分を呼ぶように言い、「奈智の血切りは、俺の役じゃ。他の奴にはやらせん」と告げるのでした。聖地に集められた少年少女たちは、徐々に体が変質し、歳をとらない体になります。食べものもいらぬ不死の存在。しかし、そのかわり、他人の血を飲まないと死んでしまうのでした…。

『彼女たちの場合は』上下 江國香織

二人の女の子の冒険小説です。アメリカで暮らす 14 歳と 17 歳の日本人の少女が、「アメリカを見る」ために二人きりで旅に出ます。「いつかちゃんと旅にでます。これは家出ではないので心配しないでね。電話もするし、手紙も書きます。旅が終わったら還ります」という手紙だけを両親へと残して、14 歳の礼那は 17 歳の逸佳といきなり旅に出ってしまった。逸佳は礼那の年上の従姉で、礼那の家に居候していたのだが、まんまと礼那をそそのかしたのだった。「これまでの人生で逸佳が“ノー”だったものは、たとえば学校だし、恋愛だし、女の子たちだった。長電話も、即レスが義務みたいな LINE も、煙草も、化粧品も、写真を撮られることも、愛想笑いをするのも見るのも“ノー”だった。数えあげたらきりのないそれらの“ノー”のなかを、逸佳は辛うじて生きのびてきた」。半年間の不登校を経て、逸佳は日本の高校を自主退学してしまっていた。成績はよかったし、高卒認定試験にも合格したので、礼那たちのいるニューヨークの大学へと留学したのだった。行きたい場所も行きたくない場所もなく、とくにやりたいこともなくて“ノー”ばかりがある逸佳にとって、唯一の“イエス”は“見る”ことだった。どこへでもいいから、陸路で行く。この国を、自分の目で見たかったのだ。二人でいくつものルールを作った。なかでも大切なルールは、「今後、この旅のあいだにあった出来事は、永遠に二人だけの秘密にする」というのと、「もし途中で帰りたくなっても、旅が終わるまで絶対に帰ってはいけない」だ…。「通りすぎて、たぶん二度と会わない人や物や場所を、嫌いになるのは難しい」。

『かか』 宇佐見りん

「うーちゃんはね、かかを産みたかった。かかをにんしんしたかったんよ」。芥川賞受賞作『**推し、燃ゆ**』が本校でも大人気の宇佐見りんさんの、文藝賞、そして史上最年少の三島賞W受賞で破格ぶりを顕したデビュー作が文庫化！ SNSのなかだけで息ができる 19 歳の浪人生うーちゃんは、心を病んだかか（母）から逃れたくて、電車で熊野詣でをする…。「インターネットは思うより冷やこくないんです。匿名による悪意の表出、根拠のない誹謗中傷、などというものは実際使い方の問題であってほんとうは鍵かけて内にこもってればネットはぬくい、現実よりもほんの少しだけ、ぬくいんです。コンプレックスをかくして、言わなくてもいいことは言わずにすむかんです。みんな少しずつ背伸びができて、人に言えん悩みは誰かに直接じゃなくて『誰かのいる』とこで吐き出すことができるんです」。

『女のいない男たち』 村上春樹

祝アカデミー賞！『ドライブ・マイ・カー』原作収録！ビートルズの曲からタイトルが採られたこの作品は、妻を子宮癌で失った舞台俳優の男性が、若くて運転はうまいが「ぶっきらぼうで無口でかわいげのない」新しい女性運転手に、妻が複数の男性と浮気をしていたこと、なぜつまらない男と浮気をしなくてはならなかったのかその理由がわからなかったことを告白する物語です。この本には女を失った男の悲哀を書いた短篇ばかりが収録されています。「女のいない男たちになるのはとても簡単なことだ。一人の女性を深く愛し、それから彼女がどこかに去ってしまえばいいのだ」。成功した美容整形外科医で、いい歳になるが結婚をせず、複数のガールフレンドと楽しく過ごしていた男性が一人の女性を本気で好きになってしまうのだが、その女性にこっぴどく裏切られ、食べ物^{わす}がのどを通らなくなって「恋煩い」で死んでいった話、妻に浮気をされて離婚した男が、ひとりでバーを開いて「誰にとっても居心地の良い場所」をつくるが、謎めいた男にこの店に「多くのものが欠けてしまった」ことを告げられ、店から離れてひとりになったときに「おれは傷ついている。それもとても深く」と気づかされる話など。女を失うとは、女の提供してくれる特別な時間を失うということ。

『海のアトリエ』 堀川理万子

「絵本はもちろん文学である。文章がついているからではない。絵本においては、絵が言葉だからだ。一枚ずつすべての絵が、どんなに繊細に、静かに、かつ生き生きと、多くを語っていることか」。Bunkamura ドゥマゴ文学賞を、絵本にして初めて受賞！（江國香織さん選！）さらには、講談社絵本賞も受賞しました！絵が雄弁に言葉を語りだす絵本です。おばあちゃんの部屋に飾ってある女の子の絵。「この子はだれ？」と尋ねてみたら、「この子は、あたしよ」と言って絵を描いてくれた人のことを話してくれた。おばあちゃんの子どものころの特別な思い出。あたしが学校に行けなくなって、夏休みも家に閉じこもっていたら、母さんの友だちの絵描きさんが「ひとりであそびにおいで」と誘ってくれた。海のそばにあるアトリエでの一週間。朝起きて、さかだちの練習をして、ごはんを食べて、海に行って、それからねこと遊んだり、ひるねをしたり、本を読んだり、絵を描いたり…。「わたしも、そんな絵描きさんにあいたかったな」「そうね、でも、あなたはこれから、あなたのだいじな人であうのよ。このことをずっとおぼえていたいって、そんな日が、きっとあなたをまっているわ」。絵本だからこそ伝わる言葉！

